

CASBEE-建築(新築)2014年版
(仮称)山進運輸株式会社配送センター新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
2 気体汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
3 維持管理業務								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								

給水・排水管にBを使用、Eは不使用
 主要設備機器の更新間隔が16年以上30年未満

2.4 信頼性			2.8	0.20			
1	空調・換気設備		3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3	電気設備		3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備		2.0	0.20			
3 対応性・更新性			4.0	0.50			4.0
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30			
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.189	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり		積載荷重が ⁴ 4500N/㎡以上	5.0	0.30			
3.3 設備の更新性			3.0	0.40			
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57			2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-			3.3
LR1 エネルギー			-	0.40			3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制							
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13			3.0
3 設備システムの高効率化		BEIm 非住宅 0.38 住宅(専有部) 0.83	4.0	0.63			4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEIm=0.38	4.0	1.00			
集合住宅の評価(3c)							
4 効率的運用			3.0	0.25			3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00			
4.1 モニタリング			3.0	0.50			
4.2 運用管理体制			3.0	0.50			
集合住宅の評価							
4.1 モニタリング							
4.2 運用管理体制							
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			3.0
1 水資源保護			3.4	0.20			3.4
1.1 節水		節水型器具を採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70			
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60			2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		塩化ビニル管(雨水立管)	3.0	0.22			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70			
1 消火剤			-	-			
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	1.00			
3 冷媒			-	-			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.4
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率65%	4.4	0.33			4.4
2 地域環境への配慮			2.5	0.33			2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25			
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25			
3 交通負荷抑制		評価する取組みが3つ	4.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1 騒音			3.0	1.00			
2 振動			-	-			
3 悪臭			-	-			
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40			
1 風害の抑制			3.0	0.70			
2 砂塵の抑制							
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			4.4	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドライン9項目該当、広告物照明を行っていない	5.0	0.70			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30			